

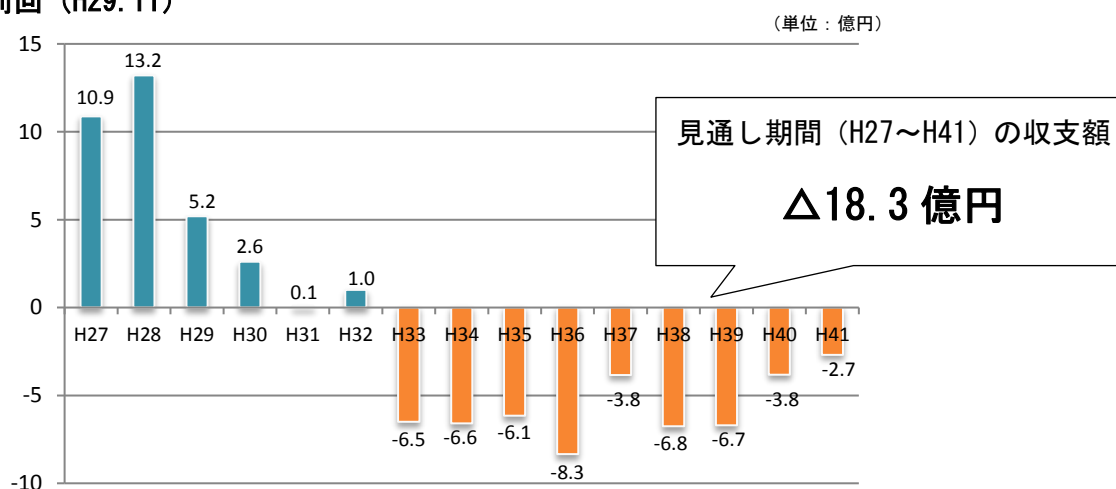
豊岡市長期財政見通し（H30.8 策定）の概要について

1 歳計剰余金の見通し（前回見通しとの比較）

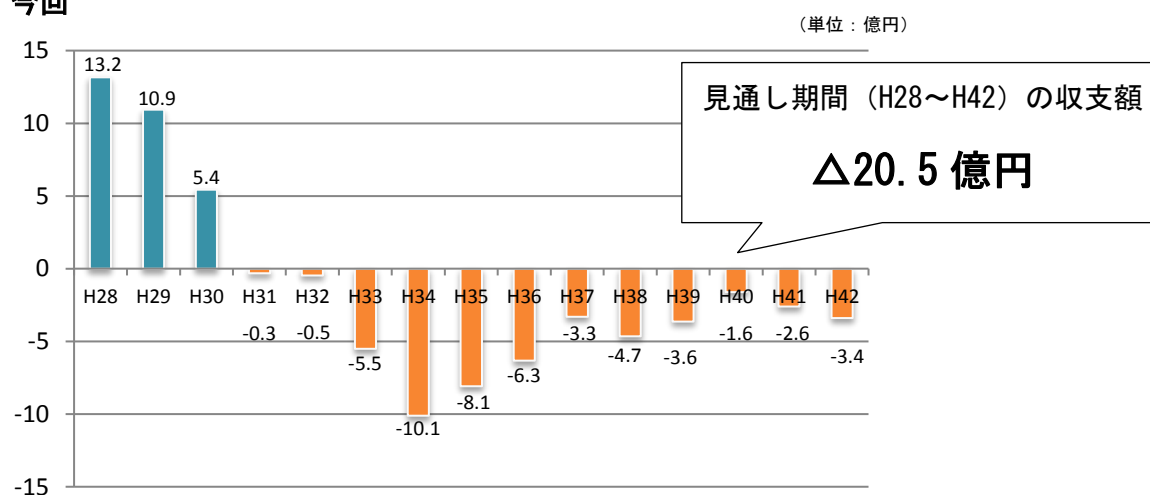
平成 29 年 11 月に策定した長期財政見通しでは、平成 33 年度以降は歳出に対して、歳入が不足することから赤字となる見通しであった。本年度の見通しでは、平成 32 年度までは収支が均衡する見込みであるものの、平成 33 年度以降に大幅な赤字が見込まれる。

前回の見通しと比較し、人件費、介護保険事業、後期高齢者医療事業への繰出金、扶助費などが増加する見込みであり、見通し期間 15 年間の収支は約 21 億円の赤字となり、前回の見通しから赤字が約 2 億円増加する見通しとなった。

前回（H29.11）



今回

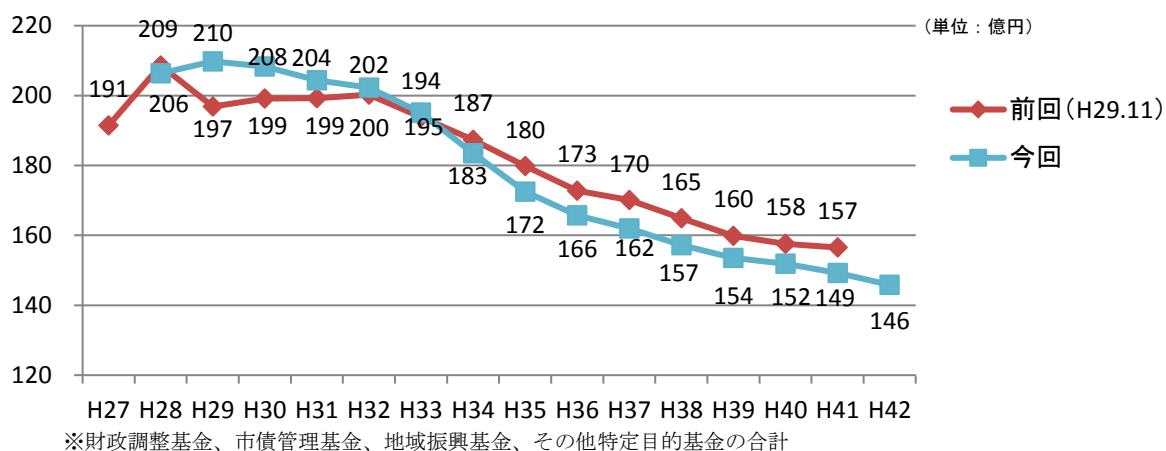


	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
H29.5時点	10.9	9.9	3.0	0.3	△ 2.1	△ 1.2	△ 8.7	△ 8.8	△ 8.3	△ 10.5
H29.11時点 ※H29普通交付税 本算定後見直し	10.9	13.2	5.2	2.6	0.1	1.0	△ 6.5	△ 6.6	△ 6.1	△ 8.3
今回	-	13.2	10.9	5.4	△ 0.3	△ 0.5	△ 5.5	△ 10.1	△ 8.1	△ 6.3

	H37	H38	H39	H40	H41	H42	見通し期間の収支額
H29.5時点	△ 6.0	△ 9.0	△ 8.9	△ 6.0	△ 4.9	-	△ 50.3
H29.11時点 ※H29普通交付税 本算定後見直し	△ 3.8	△ 6.8	△ 6.7	△ 3.8	△ 2.7	-	△ 18.3
今回（H30.8）	△ 3.3	△ 4.7	△ 3.6	△ 1.6	△ 2.6	△ 3.4	△ 20.5

2 年度末基金残高の見通し（前回見通しとの比較）

長期財政見通しでは、黒字分は基金に積み立て、赤字分は基金を取り崩すこととしているため、基金残高は減額となる見通し。近年のふるさと納税の実績から、地域振興基金を減額見込みとしたため、前回（H29.11）の見通しに比べ全基金残高は減額となる見通し。



3 歳入（前回見通しとの比較）

① 普通交付税

国の「経済財政運営と改革の基本方針 2018」（骨太方針）（H30.6 閣議決定）において、地方の一般財源総額が平成 33 年度まで平成 30 年度と同水準を確保することとされていることや近年の交付税の算定状況から国勢調査人口の減少による基準財政需要額への影響は、その他の財政需要の増加により相殺され、著しい減少はないと見込み前回（H29.11）の見通しに比べ増額となる見通し。

	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	～	37 年度	38 年度
今回	152.7	151.3	151.5	151.4	～	146.5	145.9
前回 (H29.11)	150.5	149.4	150.0	150.2	～	143.5	140.5
増減	2.2	1.9	1.5	1.2	～	3.0	5.4

※平成 32、37 年度に国勢調査が実施され、平成 33、38 年度に調査結果が反映される

4 歳出（前回見通しとの比較）

① 人件費

平成 32 年 4 月に臨時・非常勤職員に係る制度が「会計年度任用職員制度」に移行することから、所要額として毎年度 2.5 億円の増加を見込んでいるため、前回（H29.11）の見通しに比べ増額する見通し。

	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	35 年度
今回	74.4	72.9	72.5	74.6	74.6	74.9	73.7
前回 (H29.11)	72.9	72.5	72.1	71.7	71.7	71.6	70.6
増減	1.5	0.4	0.4	2.9	2.9	3.3	3.1

② 繰出金

介護保険事業、後期高齢者医療事業への繰出金が増加する見込みのため、前回（H29.11）の見通しに比べ増額する見通し。

	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	35 年度
今回	27.2	28.2	28.5	29.1	29.6	30.0	30.4
前回 (H29.11)	26.6	26.9	27.1	27.3	27.6	27.8	27.9
増減	0.6	1.3	1.4	1.8	2.0	2.2	2.5

